



414
A 623



藩情困難儀申歎願

今般藩王委託之旨報り願し全國困難之
情實^ニ依り屢歎願之末^臣等東上云月十旨
大七日歎願書上申仕以處本月十七日津朱書并
津口達^上以津國^内難儀藩王ヨリ松田内務
大臣^に形^に得たり証書^を旨報り踐^し
津廟^に儀確定^し條^に於津^に地連道奉^り致^す
津達^し報^り而津^に總仕^に且退^る等^に自勤考^へと
津^に清^く上^に儀^に津^に口達^し旨^に津^に是^に又^に致^す水^に仕^に報^り
再三^に及^り陳^す情^を仕^に儀^に恐^ろ懼^しと^も以^て治^す大^に臣^等上^に清^く又^に
取^り報^り旨^に未^だ全^く津^に解^り不^し旨^に似^し臣^等旨^に言^ふ
亦^も未^だ全^く旨^に是^にカ^レ候^に事^に存^じ儀^に而^も旨^に意^に徹^り底^に仕^に迄
致^す而^も繕^り述^す仕^に以^て柞^一箇^に歎^願哀^清セ^カル^ヲ

大正十一年四月
限
侯
爵
郵
寄

1844



石得者も支しお知事属し事件にして前院陳述
スル如く五百年來彼ノ封冊ヲ受け彼朝貢ヲ
納む彼友邦ヲ設け以テ今日玉り綿く石絶
彼く恩徳ヲ頂キ彼く愛顧ヲ蒙るハ固ヨリ
天朝ノ洞知スル處萬國ノ察觀スル處又愛つ可
ラス其恩其徳宜敬テ背ニ思慮シ也又背可ラス
也郷爲キニ述ル如く信義ノ実スル所断絶シ難キトハ此
一事ハ本藩固ヨリ海老ノ孤島西陲ノ弱國ニ
自立スル能ハス

皇國を以て二大邦間して支那振奉る故百年
一日く如し更ニ辱ヲナレ今ヤ
麦令に従事せんといふは支那信義ヲ失フ因テ
國情紛紜ト下措愕之ヲ蒙スルノ道ヲ知ラス故ニ

藩王^臣等命して 閣下 高清

天朝の威徳と小藩難免懼迫まると扱く
保護ヲ蒙リ全島ノ安堵靜寧ニまらし奉り
求ルナリ最爾タル孤島の弱國として嘗てた
天朝對しをり抗疏年辨スルノ意ハ毫髮也
是情懇の見易キとの傳 閣下の明察ヲ
企望以作頼りハ支の朝貢及使品慶賀使派遣
冊封停止との件くハ
天朝の特名を専使之ヲ清朝ノ宗教あり故
水儀の伝書ヲ洋頒せし又或ハ彼も
朝貢ヲ解して敵藩公長レ永ク
天朝ノ専属せらるる明白ナラシム此ニツノ間出テハ
一點の信義ヲ失國國の安堵ヲ得テト下始る

穩息の地安んてり若彼不若して唯
 天朝の命の從せしむ支那吾負せり不佞不義の
 名を以てせんときり時當り何の辭可有ん此等の
 情懇深き沖慎察伏て奉願也其他職制改革
 々如キモ實に引れ難し此儀も更陳清に任じ之
 此支那不属の件も信義の関スル處事尤重大に
 藩王の痛念最急スル最深キ所以ナリ琉球
 於て松田内務大臣に請ふてお願ひ給はれ採用ナク
 附恩王子藩吏の上京抑留停止セラレ沈滞
 出入之暇と近き處違之アリ矣
 閣下洋趨一情ヲ表シ哀ヲ清の願也
 天徳遠スル一途ナク猶念中より急務中の為の
 如し實に奈何ともスル能ハズ故に不待已藩王ヨリ

今一應政府に申上其の上沖提用云沖府より東京表
 於て上沖清で申上の一書ヲ奉答以て後書ノ意
 理否ヲ不同沖清仕以効るを乞ひ以因テ海吏
 臣等ヲレテ此旨執り附托一收白里ノ絶海ヨリ
 群衆をセシメ以儀を清つ此し為し情状源々沖涼祭
 以下明瞭に確然沖に且教以下僻境春蠶雨々
 小民苟安堵仕藩治政績お願ひ候沖指揮不度
 言たるを臣等序藩を難仕憂鬱愁傷々々不佞
 依り畏威り不憚と申仕以余何卒寛大の恩徳
 之を前文陳情の執事より沖洋儀以下度此候
 重白洋迄奉懇願也

明治八年十一月廿七日

親里親雲上
内間親雲上

環 環 港
昔登武親雲上
幸地親方
與始原親方
高安親方
池城親方

太政大臣三條實美殿

